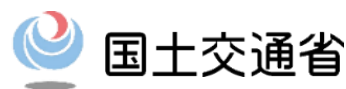


# 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業 説明会

令和5年度採択都市 事例発表  
(令和5年6月)

香川県さぬき市  
建設経済部都市整備課



# I. プロジェクト全体像

## 実施事業・事業規模・実施主体

R5年度実施事業		規模(配分ベース)【千円】		実施主体
		事業費	国負担分	
(1)	事前調査	1,000	500	アジア航測株式会社 四国支店
(2)	3D都市モデルの整備・更新事業	18,000	9,000	アジア航測株式会社 四国支店
(3)	3D都市モデルの活用（ユースケース開発）事業 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業	6,000	3,000	アジア航測株式会社 四国支店



PLATEAU  
by MLIT

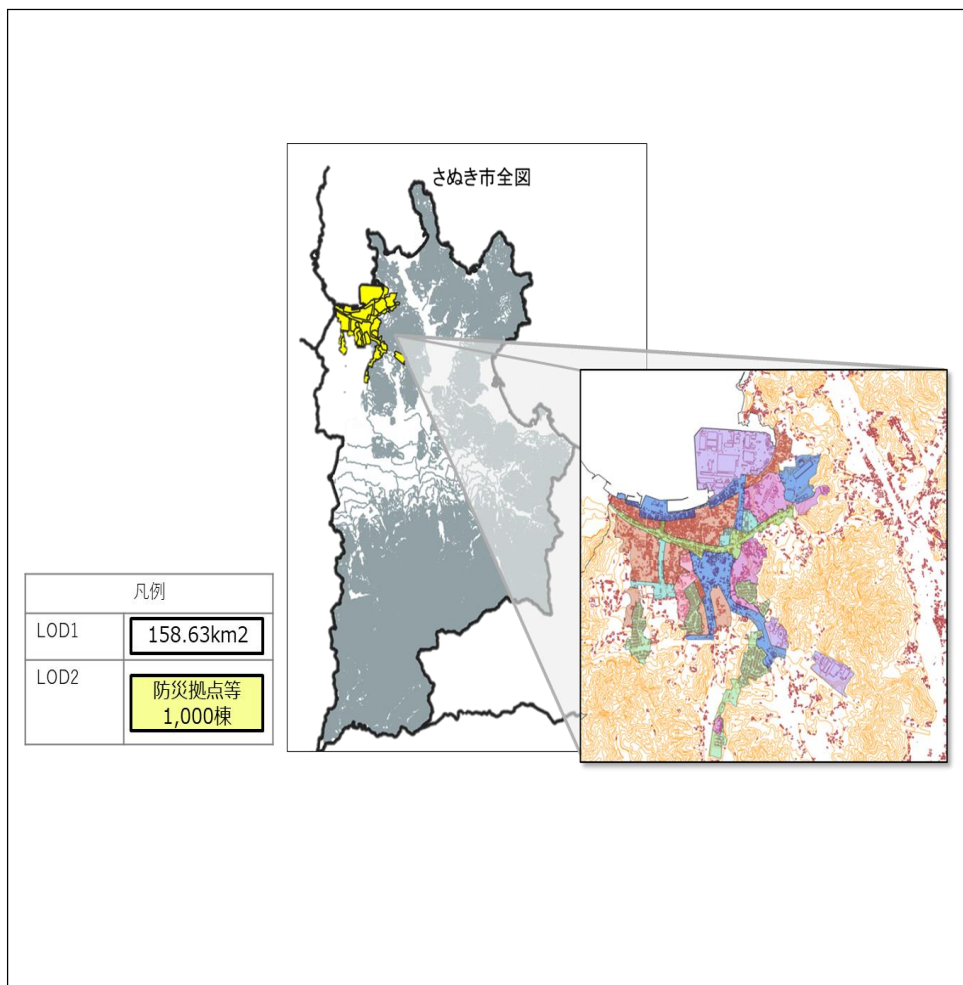
## Ⅱ. 3D都市モデルの整備

### 整備する3D都市モデルの概要

#### 整備対象地物

地物名		整備状況	範囲
建築物	LOD1	R5年度 新規整備	さぬき市全域 (158.63 K m <sup>2</sup> )
	LOD2	R5年度 新規整備	さぬき市内居住誘導区域 (4.75km <sup>2</sup> : 1,000棟)
道路	LOD1	R5年度 新規整備	さぬき市全域 (158.63km <sup>2</sup> )
都市計画 決定情報	LOD1	R5年度 新規整備	さぬき市全域 (158.63 K m <sup>2</sup> )
土地利用	LOD1	R5年度 新規整備	さぬき市全域 (158.63 K m <sup>2</sup> )
災害リスク	LOD1	R5年度 新規整備	さぬき市全域 (158.63 K m <sup>2</sup> )
地形	LOD1	R5年度 新規整備	さぬき市全域 (158.63 K m <sup>2</sup> )

#### 整備エリア図





## Ⅲ. 3D都市モデルの活用（ユースケース開発）

### ユースケース開発の概要

テーマ	防災・防犯/都市計画・まちづくり/住民参加
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	津波浸水想定区域を含む居住誘導区域における効果的な避難環境の整備
概要	市内全域での災害リスク情報の3次元表示（LOD1）を行い、市が抱えるリスクを可視化するとともに、特に、津波浸水想定区域内にある居住誘導区域を対象として、3D都市モデル（LOD2）と時系列での浸水想定を重ね合わせ、今後の防災計画や避難経路設定に向け、庁内検討に活用する。また、その検討をふまえ、避難訓練等防災まちづくりイベントでの活用などにより、市民の行動変容を促す。
実施体制・役割分担	アジア航測株式会社四国支店 [データ整備・3D都市モデル閲覧システムの構築]



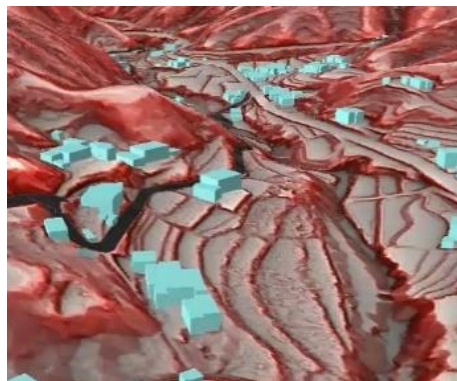
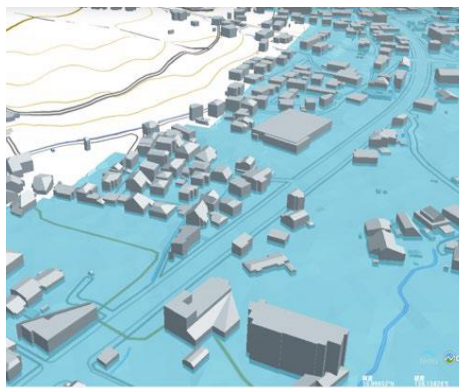
PLATEAU  
by MLIT

## Ⅲ. 3D都市モデルの活用（ユースケース開発）

### ユースケース活用イメージ

#### ● 災害リスクの可視化【令和5年度】

- ・ 3D都市モデルと3次元化した浸水想定区域図を重ね合わせ、災害リスクを可視化する。
- ・ 可視化した災害リスクは、防災計画・避難経路設定の検討に向け、危機管理部門・道路整備部門等庁内で活用する。
- ・ 災害リスクを市民に公開し、市民の危機意識の向上を図り、行動変容を促す。





PLATEAU  
by MLIT

# IV. R5年度事業化に向けた検討・調整経過について

～'22/5月

6月～8月

9月

10月

11月～12月

'23/1月

2月～3月

4月～

国の動向



さぬき市の動向

'20/8  
【窓口】  
都市計画  
部局

**【3D都市モデル活用検討】**  
 ・都市計画部局  
 - 基盤地図更新  
 - 3D都市モデル構築

**【窓口】**  
 ・都市計画  
 部局

方針検討

**【予算協議】**  
 ・財政部局

**【3D都市モデル活用検討】**

**【関係部署】**  
 ・都市計画部局：都市整備課  
 ・防災部局：危機管理課  
 ・DX部局：プロジェクト推進室

- ✓ 基盤地図の更新
- ✓ 都市構造の可視化
- ✓ 災害リスク・浸水予測の可視化
- ✓ 都市構造等の変化予測

概算  
要望

**【3D都市モデル活用具体化】**  
 ・事業者へのヒアリング 航空測量会社  
 ・事業内容の精査  
 ・見積り取得  
 ・予算措置（財政部局との折衝・首長説明等）

## ＜事業の具体化に向けた検討過程＞

- 都市計画部局が窓口となり、庁内の関係部署と情報共有を行い、まずは都市計画マスタープラン及び立地適正化計画で課題とされている防災・減災対策を主軸に3D都市モデルの活用検討を行った。
- 市内立地の大学・高校の移転等に伴い、人流ほか都市構造の変化を予測する必要性が生じたことから、活用の幅を広げて検討を行い、結果として3D都市モデルの多様な価値の理解につながった。
- これまで懸案事項だった基盤地図の鮮度劣化と、防災及び都市計画的課題を解決することが同時かつ低負担で可能となることから、財政部局及び首長に対し、費用対効果等を明確に説明することができた。

希望あり

